

高知県東部広域地域公共交通協議会 第3 回総会 議事録（要旨）

（日 時） 平成30 年12月27 日（木） 10:00 から11:10

（場 所） 高知県安芸総合庁舎大会議室 1・2

（次 第）

1 開会

2 報告等

（1） 新駅設置効果に関する調査結果について（資料1）

（2） ごめん・なはり線活性化協議会での協議結果について（資料2）

3 議 事

高知県東部広域地域公共交通網形成計画（素案）について（資料3）

①概要について

②計画目標と実施項目について

③計画の達成状況の評価について

4 その他

今後のスケジュールについて（資料4）

5 閉 会

(内 容)

1. 開会

2. 報告等

(1) 新駅設置効果に関する調査結果について

事 務 局：第2回総会で中間とりまとめという形で報告したが、新駅周辺住民ニーズ調査の結果などをもとに実施した、新駅設置効果に関する調査の結果がまとまったので報告する。

なお、この結果については、別途協議を進めるため、ごめん・なはり線活性化協議会にて活用したことを併せて報告する。

(委託事業者から、資料1に沿って説明)

質問・意見

委 員：B/Cの数値に賛成とか反対というわけではないが、資料1の最終ページについて、見方を教えてほしい。県の人口減少の計算プロセスは書かれているが、予測される利用者数の計算プロセスについて、後日でも構わないので、個人的に教えていただきたい。

事 務 局：詳細については、後日、説明する。基本的には、アンケート結果から、新駅を利用するかしないかというところをベースとしている。よくアンケート結果で、現在車を利用して、新駅があれば利用するという方がいるが、車で移動した場合の移動コストと鉄道に切り替えた場合の移動コストを比較し、コスト面で新駅利用による便益が出ない方を除外して算出している。したがって、アンケートで利用すると言ってもふたを開けてみると利用しない、という方もよくいるが、そのような部分ではできる限り考慮した数値を示している。

委 員：何かモデルを作ったか。

事 務 局：基本的には、県の人口減少率を踏まえながら、現状の利用者がどれだけいるかという点と、新駅については球場前駅と安芸駅の駅勢圏を今回の調査からピックアップし、その中から新駅利用者の割合を踏まえ、新駅の駅勢圏はこのあたりだろうというのを町丁目単位で算定し、その中から利用率を出して1日あたりの利用者数を算出している。

(2) ごめん・なはり線活性化協議会での協議結果について

事 務 局：(資料2に沿って説明)

質問・意見：なし

3. 議事

高知県東部広域地域公共交通網形成計画(素案)について

事 務 局：今後の素案の成案に向けての進め方について説明

後ほど、「4. その他」の今後のスケジュールでも説明するが、今回は「素案」というかたちで提示している。年明けの1月に第4回総会を開催し、その場で「案」という形にする。その後、パブリックコメントや意見修正等を踏まえ、年度末に最終の成案とすることを考えている。

本総会において、計画の素案について協議したのち、事務局より、本協議会外の関係先に素案の確認をしてもらうことを考えている。

本日の意見と、協議会外の関係先からの意見を踏まえ、次回の第4回総会において、最終的な案の提示を考えている。

また、本日以降に気づいた点があれば、後日意見書を提出してほしい。

(素案の構成について資料3-2の目次により説明)

①概要について

事務局：(委託事業者から、資料3-1に沿って説明)

質問・意見

委員：今回、「公共交通ネットワークの再構築」という計画目標と「既存バス路線網の最適化」という実施項目があるが、一方で達成状況の評価ではバス便の乗客数を目標値とすることを踏まえると、基本的には今回の計画に基づくバス路線への対応は、利用状況の調査と利用促進という理解でよいのか教えてほしい。

また、「異なる交通モード間のスムーズな乗換環境の整備」という計画目標の中で、新しい拠点として輝るぽーと安田が設定されているが、この趣旨を教えてほしい。

事務局：輝るぽーと安田は、事前に自治体へ訪問した中で話があり、提示している。詳細な中身については、年明けの分科会で相談したい。

路線は、利用促進を基軸として考えているが、繋ぎ方を考えていくことも必要かと思う。こちらも、分科会にて具体的な話をしたい。

委員：村長が高齢者の足として路線バスが大事であると申ししており、公共交通を利用する方への支援など、いかに利用を増やしていくかを来年度以降の事業として考えていきたいと申ししておりますので、方向性は同じと思うが、これからバスについて村としても力を入れたいと考えていることの理解をお願いしたい。

委員：「既存バス路線網の最適化」の最適値はどのようなものを想定されているのか。

事務局：合理的に行くと、利用されていない路線を見直しするといったことが最適になると考えられるが、一人でも利用している路線は、今後増やしていくという話もあり、その中で今数値として挙げるのは難しいところがある。ただし、乗降調査の結果から、区間によって利用していない箇所もあり、重複している路線はまとめるなど、まずは路線としての最適化をできるだけ図りたいと考えている。その後、利用者動向については、年々のモニタリング等を踏まえながら、この数値であればいいというのが出てくると考えている。具体的な数値としては、国庫補助対象の15人/日などは一つの指標となるが、必ずしもそれがすべてではないと思うので、ルート代替による時間短縮ができないかなどの検証を、交通事業者や自治体の皆様と協議しながら進めていければと考えている。

委員：最適化と書くと、1つの解を求めて便数、価格、頻度等を決めていくように聞こえるので、他の実施項目と同じような表現にしてほしい。試せる環境を作るのが大事と思う。今の表現では、非効率なものを排除するようにも、効率的な形に持っていくがそれは大変難しいというようにも聞こえる。研究している身としては「最適化」というのは過激な言葉なので、検討の余地があると思う。

また、「異なる交通モード間のスムーズな乗換環境の整備」について、非常に大事な観点

と思う。関連計画として記載があるが、各自治体の公共交通網形成計画と整合性を取ってほしい。自治体の計画は、かなり地域に入って具体的な情報を整理しているので、そちらに制約を作らないように連携するという形にすると、地域の方が動きやすいのではないかなと思う。

事務局：安芸～馬路～魚梁瀬線の沿線では、安田町で網形成計画を策定中との話もあるので、そちらとの連携も取りながら策定していきたい。

委員：安田町においても、高齢者等の日常的な交通手段確保を目的とし、公共交通網形成計画策定を検討中である。町内では、東部交通の安芸～馬路～魚梁瀬線が1日4便通っている一方、空白地帯も複数あるので、そこを無くすことを目的に計画を策定している。その中で、東部交通のバスの利用を促進していく形で空白地域を解消していくのがベストと考えている。「既存バス路線網の最適化」の議論の中で、安田町としては利便性向上のため、増便も含めて検討をお願いしたい。年明けの分科会の中でも、周辺自治体の皆様に協力をお願いしたいと思う。

②計画目標と実施項目について

事務局：（委託事業者から、資料3-2 P92～110に沿って説明）

質問・意見

委員：1年ほど前に、高知東部交通のバスの、のいち駅への乗り入れを検討してほしいと市に相談している。ごめん・なはり線は、日中1時間に1本しかないので、乗り遅れた方にはバスを案内しているが、バスとの時間差が5～10分とかなり短いので、駅からバスが出ればお客様にも対応できると思い、相談したが、当時は、駐車場も狭いので今後ということであった。

また、フリーきっぷの販売も実施しているが、皆様あまりご存知ないので、こちらのPRを考えれば利用者数も増えると思う。のいち駅を拠点に東部地域への誘客をと考えており、多言語化の案内表示についても、今後、市のほうでしていただけると伺っている。また、訪日観光客の対応設備も今後検討していきたいと考えている。定期等は一定の収入しかなくても、そちらに伸びしろがあると考えているので、皆様にも協力いただけたらと考えている。

委員：施策ごとにスケジュールが下を書いてあって見やすいと思うが、これを1枚にまとめるとよいと思う。例えば、「交通結節点における案内表示の多言語化・多目的化」と「地域内の公共交通に関する情報提供サイトの一元化」を並行して実施し、案内表示にサイトのQRコードを付ける、などの検討がしやすいと思う。

事務局：スケジュールは、95ページの一覧表の横につけるような形で、一覧表形式にて整理したいと思う。

委員：また、「学生向けの運賃割引運賃の導入と広報」について、非常に大事と思うが、合わせて乗り方教室なども検討してほしいと思う。

それと、「地域内の公共交通に関する情報提供サイトの一元化」について、観光ルートの紹介なども書いているが、目的地になる施設との連携をしてほしい。いかに公共交通網がよくなっても、目的地に行きたくなくなるようにならないければ意味がないので、これだけ公共交通網がよくなったのであればうちも頑張ろう、という計画になっていれば一体感が持て

るのではと思う。

委員：カルテの中で、●と▲の違いを教えてください。

事務局：●が実施主体、▲が関係機関となっている。凡例を入れるようにする。

委員：「高知龍馬空港へのアクセスの向上」について、新たにLCCの就航もあり、今後の利用促進に向けて非常に重要と思うが、乗合タクシーがほとんど知られていないということで、なぜ周知ができていなかったのかという要因分析も合わせて実施しないと、代替手段を用意しても同じ結果になりかねないので、そのあたりの分析も行ったうえで、次の対策を考えてほしい。

事務局：来年度に実施予定の需要調査にあわせて実施したいと思う。

③計画の達成状況の評価について

事務局：（委託事業者から資料3-2 P111に沿って説明）

112ページについては、成案後、年1回程度の高知県東部広域地域公共交通協議会を開催し、実施状況や目標値の達成状況を報告することと考えている。

質問・意見：なし

諮問

会長：資料3-1及び3-2の「高知県東部広域地域公共交通網形成計画（素案）」に、今回の意見と、各取組に係る分科会、及び関係各所からの意見を踏まえ、次回の第4回総会に諮る「計画（案）」を作っていくこととしてよいか。

（異議なし）

それでは今回の協議内容に従い、「計画（案）」の検討に入ることとする。

4. その他

今後のスケジュールについて

事務局：（資料4に沿ってご説明）

質問・意見：なし

5. 閉会

事務局長：計画策定業務の進捗にあたり、今後、皆様に意見を伺うべき案件が出てきた際は、都度、事務局から連絡をする。

次回協議会は年明け1月下旬を予定しているが、日程調整については、また改めて知らせる。